



# TWEET

## 母は心配性

お恥ずかしい話だが、私は子どものころから変な心配性だった。

例えば「お腹痛い。盲腸かもしれない。」と言って大泣きし（勿論ただの腹痛）、大学生の時にはふとしたことから「私はガンかもしれない。」と、一週間家から出られなくなったことがある（2つの病院へ行ったが、勿論異常なし。）そんな私が母になったらどうなったか・・・

～妊娠から出産～

実は1度流産を経験していることもあり、また流産したらどうしよう…と怖くてたまらなかった。だから少しでも気になる症状があれば即検索！保健師さんから「悪い情報ばかり気になるでしょう、止めた方が…」と言われたが、結局出産まで毎日スマホ漬けになった。

あ、そうそう、出産（分娩）に関しては特に心配で「鼻からスイカ出す痛み、私に耐えられるんだろうか…」と不安しかなかったので、手当たりしだい、周りの方々に聞いて回った。友達や立会出産をした上司、そして「あら、何ヶ月～？」とスーパーで話かけてくれた初対面のオバチャンにまで「どれくらい痛いですか？」と。

そうして臨んだ出産は、「あと何回いきんだら出ますか？」「頭出ました？」と分娩台の上で聞くほど冷静で、何の問題もなく、こんな私でも無事に終える事が出来た。

～さあ始まった子育て～

実家での里帰り出産だったので、母には色々と聞きまくった。しかし私が産まれた30年前と今では育児の方法も変わっている。なのでこれまたスマホで検索の毎日になった。結果、妊娠8カ月の時には2.0あった私の視力は、産後1年で行った運転免許更新で0.7のギリギリ、危うく眼鏡を作らなければ更新出来ないところまで低下していた。

そして、特に私を心配させたのは、言葉が出なかったことである。

1歳8カ月で行った検診で、単語は1つも出ておらず、「2歳頃に電話します」と保健師さんに言われたが、その日から私の検索魔ぶりはヒドイものになった。そして毎日2時間は泣いていた。たまらず、「発達検査をして頂けませんか？」と保健センターに電話し、発達心理士さんに見て頂いた。結果は年齢相応。「喋る事の必要性を感じていないから喋ってない。」と言われた。そういえば、お茶の入ったコップをいつも机に置いていたから勝手に飲んでいた。「おちゃ、ちょーだい」と言わなくても欲求が満たされていたのだ。それに私が動物嫌いだから、「ワンワンだね～」と教えてなかった。他にも私には思い当たるふしが沢山あり、猛省した。

そして2歳3カ月の時、下の子が生まれた。すると、一度経験しているからか、物凄く子育てが楽に感じた。上の子は「10時7分から12分23秒授乳…」と細かく記録したが、下はそんな記録は1度もしなかった（心配性がマシになり、私のズボラさが本領を發揮し始めた）。

上の子の言葉も、2歳半でようやく話し始め、3歳を過ぎた今では「そんな言葉どこで覚えたの？」とビックリする毎日だ。

とりとめもなくここまで書かせて頂いたが、実は私の職業は学校の先生。今まで千人以上の子供たちを指導してきて、誰一人として全く同じ子などいなかった。なのに私は「〇カ月で〇が出来ようになる」「子育てはこうあるべきもの」などという固定概念にさいなまれ、その概念から少しでも外れると異常に感じ、自分の子どもを信じていなかったのだ。

もうすぐ下の子が1歳になる。上の子よりさらにゆっくりかな？と思うこの子の成長と、すっかりお喋りになった上の子の成長を、これからはゆったりとした気持ちで見守っていきたいと思う。

2人のおかあちゃん

このコーナーはぐるんぱママの「つぶやき」を随時掲載します。お楽しみに！投稿も大歓迎です！